



7200 土地区画整理事業における住宅地景観の形成と特性に関する研究(その2) : 神戸市の震災復興事業区域を事例として(暮らしと空間, 都市計画, 2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会・建築デザイン…

栗山, 康輔
三輪, 康一
栗山, 尚子

(Citation)

学術講演梗概集, 2014(都市計画): 435-436

(Issue Date)

2014-09-12

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003110>



土地区画整理事業における住宅地景観の形成と特性に関する研究(その2) -神戸市の震災復興事業区域を事例として-

正会員 ○栗山康輔*
同 三輪康一**
同 栗山尚子***

土地区画整理事業 住宅地景観 震災復興事業
景観形成 神戸市

1. はじめに

その1では研究対象となる神戸市震災復興土地区画整理事業が行われた各地区の特徴を明らかにし、4つの地域に分けた。その2ではその1の結果から、各地区の1つの通りの景観に対して行う微視的目線による調査についてまとめている。

2. 微視的目線による比較と考察

2.1 調査方法

その1での地区ごとの特徴を捉えた上で、各地区から通りを1つ選び出し、そこに立ち並ぶ住宅の形状と前面道路に対する敷地空間の構成を平面・断面・立面から分析する事により、住宅地の景観がどのような要素によって構成されているのか詳しく分析する。調査対象となる通りは比較的住戸が立ち並んでおり、幅員が5~6mで通りの長さが50m以上のものとする。すべての地区での調査対象住宅は160カ所となる。調査方法は現地に訪れ、植込み・植木鉢の有無、生活用品のあふれ出しの状態に注目した敷地空間の利用実態と住宅形状、駐車場位置を整理していく。本章では六甲道駅地区から六甲道駅北地区と六甲道駅西地区を取り上げ、比較の例に上げる。

2.2 セットバックの距離についての比較と考察

敷地空間の規模の指標となる前面道路からのセットバックの距離を比較する。以下のように階級を分ける。

- ①. 1m未満…住民が活動するには制限される距離
- ②. 1m以上3m未満…住民の活発な活動が期待され、住宅の前に駐車が出来ない距離
- ③. 3m以上…住宅の前に駐車が可能な距離

大きな差は無いが六甲道駅北地区の方が1m未満のセットバックの距離の割合が多く、比較的小規模の敷地空間が多いことが分かる(図1)。

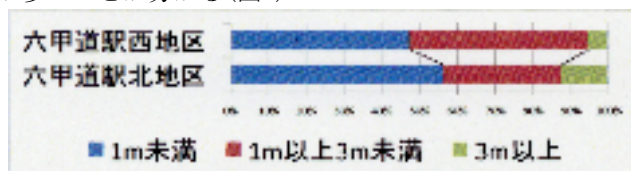


図1 各地区のセットバック距離階級別分類割合

2.3 駐車場位置についての比較と考察

住戸形状に大きく影響する要素として駐車場の位置があげられる。対象地域は駐車場を持つ住戸が多く景観に大きな影響を与えていると考えられる。重要な要素である駐車場の位置を現地調査の結果と長谷川(2007)¹⁾の研究を参考に、3タイプに分類する(図2)。

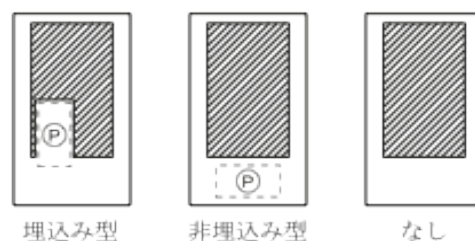


図2 駐車場位置分類

地域の割合について大きな差は見ることができないが(図3)、ここでさらに断面構成として玄関口の配置による分類より分析してみる(図4)。

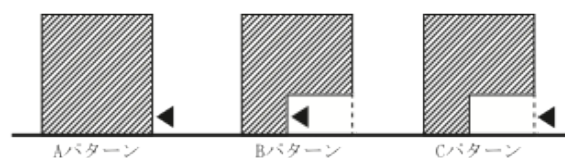


図3 各地区の駐車場位置別分類割合

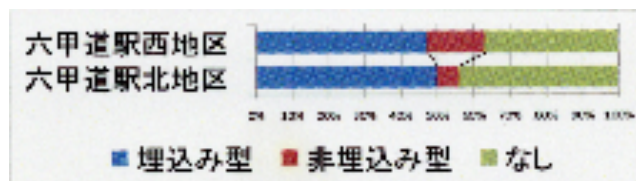


図4 断面形状の分類

(1) Aパターン

住宅下層が駐車スペースによって影響を受けず、前面道路に対して1つの面が立っている状態のもの。アプローチに一部とられるが、住宅形状による敷地空間への影響はもっとも少ない。ただし駐車スペースが敷地内にある場合、敷地空間に大きな影響を与える。通りの景観として1つの面が立ち上がる。

(2)Bパターン

住宅下層が駐車スペースとして使われ、かつその奥まった部分に玄関があるもの。駐車スペースと玄関へのアプローチが同じであるため、それ以外の部分は敷設空間に対しての影響は少ない。また駐車スペースも玄関のアプローチとして敷設空間同様に扱われる場合がある。

(3)Cパターン

住宅下層が駐車スペースとして使われるが、玄関は前面道路に接した状態で、設けられている形状のもの。車の出入りをするスペースと玄関に出入りするスペースが必要となり、敷設空間に大きな影響を与える。

Aパターンにおいてはその割合が等しいがBとCでの割合に差がある(図5)。敷設空間を有効に活用できることが期待されるBパターンが六甲道駅北地区の方が大きい。実際に写真1のように大型の植栽が見られる。



写真1 北地区の大型植栽

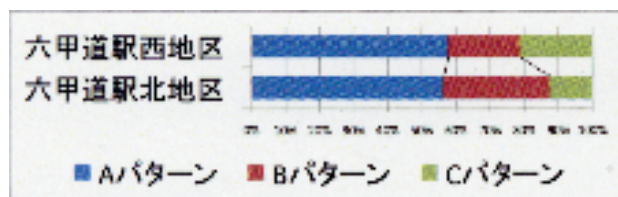


図5 各地区の断面構成パターン別分類割合

2.4 微視的目線による比較調査の考察

その他立面構成に関する分析を行い、微視的目線による敷設空間の分析で以下の様な知見を得られた。

- ①. 玄関口はそのセットバックの距離と関係して、敷設空間に大いに影響を与える。セットバックの距離が短い場合は前面道路に対して玄関口が接している場合、人の出入りがあるため敷設空間が活用されることが少なくなってしまう。

表1 六甲道駅北地区景観形成を担う要素のまとめ

六甲道駅北地区	震災以前の状況 神戸市東部の副都心として利便性の高い地区として発展していた。その分狭小住宅の密集や老朽化が進んでおり、路地が多く都市基盤の整備が迫っていた。	事業の特徴 計8つのまちづくり協議会によってそれぞれの地区で進められた。震災の経験から大型の防災公園がつけられ、景観に大いに影響を与えている。
用途別割合 店舗・住宅 住宅 住宅 住宅	地区別住宅規模の特徴 3割程度中心 セットバックの距離が1m-3mのものが多い 間口長さはばらつきがある 面積規模が小さい	敷設空間の特徴 間口長さ、後退距離共に小さいがその分、敷設空間が植栽などの装飾に使われている。

*神戸大学大学院 博士課程前期課程

**同教授・博士(工学)

***同助教・博士(工学)

- ②. 壁面の形状(窓の有無)は敷設空間の利用方法に大きな影響を与える。ただし窓があれば良いというわけではなく、窓があることにより生活用品のあふれ出しが目立つ場合もある。逆に壁面のみであるために、敷設空間の利用として植栽による住宅の装飾が進められている場合もある

3. まとめ

巨視的目線、微視的目線の各地区の比較によって得られた景観を構成する要素とその違いは表1のようにまとめた。またこれによって得られた以下の景観形成に関する知見を本論文のまとめとする。

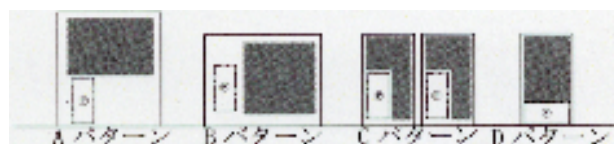
(1)面積規模の大きい住宅の場合(例:森南地区)

駐車場の配置において図12のうちの2つのパターンが考えられる。Aパターン、Bパターンのいずれにせよその敷設空間の大きさや前面道路との接している状況から住民の敷設空間への意識が景観に表れる場合が多く、住民の景観への意識が重要である。

(2)面積規模の小さい場合(例:六甲道駅北地区)

Dパターンは敷設空間がすべて車にとられ、景観上も良くない。よってCパターンのほうが景観上好ましい。Cパターンで重要なのが玄関の位置である。玄関を駐車場の奥または側面に設置すれば敷設空間に人や車の動線が出ず、植込みの設置が可能になる。さらに敷地面積の規模上小さな敷設空間になり、活用方法が物置または植込みに限られる。つまり住宅設計段階で敷設空間の活用方針を決めることができる。

図6 結章・面積と駐車場位置による分類



参考文献

- 1)長谷川寛, 再建戸建住宅の前面道路及び敷設空間の生活領域化に関する研究 -神戸市の震災復興土地区画整理事業地区に着目して-, 日本建築学会近畿支部研究報告集, 計画系 (47), 561-564, 2007